



立山にまつわる「むかし」と「いま」を一堂に

立山博物館・開館

立山の自然や歴史を豊富な資料や映像で紹介する施設として完成が待たれていた立山博物館が、十一月一日にオープンしました。開館記念式典には、中沖知事をはじめ関係者約四百五十人が出席。知事の式辞に続いて、佐伯彰一名誉館長の開館宣言の後、テープカットが行われました。

今回新設された施設は「展示館」と「眺望館」。展示館は、らせん階段を組み込んだピラミッド型の建物で、三階建。中は一階からそれぞれ企画展示室、人文展示室、自然展示室となっており、各階で立山の自然や、かつての立山信仰にまつわる色鮮やかな曼荼羅などを目のあたりにすることが出来ます。

また眺望館には、三面マルチスクリーンがセットされ、立山の自然や立山曼荼羅の世界を、迫力ある映像と音響で楽しむことが出来ます。

神の住む山、立山。その魅力を目で、耳で体感できる拠点施設の誕生です。

